

入庁後の振り返りと今後の抱負

久留米支部 久留米県土整備事務所 技師 中園勇也

入庁して約2年間、今回原稿を書く機会を頂いたので、これまでに経験してきたことを振り返ってみる。

2020年に新たに県職員になった我々2年目の職員は、例年とは違った異例のスタートを切ることになった。世界的に大流行している新型コロナウイルスの影響により、去年までは行われてきた行事が次々と延期、中止となっていく。社会人としてうまくやっていけるか不安に感じている中、追い打ちをかけるように在宅勤務が始まったのだ。

私が配属された久留米県土整備事務所建設第1係は、主に事務所の管内に含まれている久留米市、小郡市、うきは市及び大刀洗町における県道の整備を行う係である。管轄エリアは他の事務所に比べても広く、業務量もその分多いというのが特徴らしい。

私は、入った当初はこのような事実を知ることもなく、先輩方が業者との打ち合わせ、積算、中間検査などを行っている姿を見ながら自分もいつか先輩たちと同じような仕事を出来るようになるだろうと少し楽観視していた。

しかし、その甘えた考え方は、在宅勤務が始まった辺りから変わっていったのだ。

在宅勤務が始まるまでは現場に行くことや先輩方に直接仕事のやり方を教えて頂くことが当たり前だったが、事務所に来る回数が半分になったことで出来る仕事は限られ、先輩方にも声をかけづらい状況になってしまった。

先輩方には「忙しそうにしているけど教えることは出来るから」と優しく言ってくれたが、当時の自分は、先輩方には迷惑をかけられないので自分自身で何とかするしかないという考えに陥ってしまった。

結果として在宅勤務が明けて、期限のある設計書の仕事を任された際に、自分で完成させることが出来ずに、先輩に最後尻拭いをしてもらうという情

けない失敗をしてしまったのだ。

私は、入庁していくつか反省すべき点があると思っているが、1番の反省点は報告・連絡・相談が徹底出来なかったことだと考えている。

これは、私自身、入庁する際に1番気をつけようと思っていたことなので、尚更反省しないとイケないと思う。報告・連絡・相談というのは簡単なように思えて意外と難しい。

例えば、上司に仕事の内容を報告する際には、自分自身が仕事の内容を理解し、話す内容を整理してから話さないと相手には上手く伝わらない。もし、相手に的確に伝わってなければ、結果としてすれ違いが生まれ、トラブルを起し兼ねない。また、スピードも重要であると実感した。急いでいる仕事の報告や連絡を後回しにしてしまうと、前もって伝えていたら対応出来ることも出来なくなる場合があるからだ。

そして、どうしても分からないことは相談するという勇気も重要である。勿論、何でも聞くというのはよくないが、少しでも不安を感じる事があれば、あらかじめ自分の考えを用意して相談することで、解決に導くことができると自分自身の失敗から学んだ。

このように失敗して学ぶことが多かった2年間だったが、私は久留米県土整備事務所建設第1係に配属されて本当に幸運だったと思う。なぜなら、貴重な体験をさせて頂いているからだ。

長期にわたる事業の最後の仕上げである新道への供用開始の瞬間を、現地で自分の目で確認できたことは、かけがえのない経験になったと思う。入庁当初からその現場は見てきたが、当初は全く新道に切り替わるイメージが浮かばず、本当に終わるのかなと疑問さえ感じていた。しかし、切り替え予定日に近づくにつれ、あっという間に形になっていった。私自身、安全施設設置工事の担当をしていたので、業者、上司、市の担当、地元の方などたくさん関係者と話し合いをしながら最後の切り替えに向けて取り組んでいた。

だから、完成して車が新しい道を通っている光景を見たときには少し感動を覚えた。しかし、自分がこのように最後の瞬間に立ち会えたのも今まで担当してきた県職員、業者、地元住民の方々などの苦勞があつてのことであ

る。

私は、今回の経験から、土木の職員は、事業の最後を担当する職員がいれば、完成まで着々と繋いでいく職員もいるということをも身をもって知ることが出来た。

自分が現在、担当している仕事はどんな形であれ、ゆくゆくは県民の方々の生活の改善に繋がっているということを忘れずに、これからも誇りをもって仕事に臨んでいきたい。また、入庁してからの反省点も忘れずに意識し続けることは勿論のこと、忙しい係の先輩方の負担を少しでも減らせるように、土木技術者としての知識や経験を高めていきたい。